

---

# 雨宿り。

はなちょこ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨宿り。

### 【著者名】

【あらすじ】  
はなちよ

ある男性が雨宿りをしてみると・・・。

「まいっただあ・・・・・・」

そう言つて僕は空を見上げる。

突然、降り出した雨。

傘を持つていない僕は、近くにあつた店の軒先で雨宿りをすることにした。

店はシャッターが閉まっている。ここなら店側の邪魔にはならなりだらう。

僕は、長い溜息をついた。

雨なんか大嫌いだ。

良いことなんて一つもないじゃないか。うつとおしいだけだ。少なくとも僕らサラリーマンにとっては。すると。

女性が走ってきて、僕の隣に立つた。  
彼女も雨宿りだらうか。

僕は女性の横顔をチラ、と見みた。

綺麗な横顔。

思わず見とれてしまふほどだ。

「雨、なかなか止みませんね」

女性はそう言つてこちらを見た。

「え？ ああ、本当ですね」

突然、話しかけられた僕はそつ返すのが精一杯だった。

鼠色の雲の隙間から太陽の光が覗いた。

さつきまで降っていた雨が嘘のようにやんだ。

「この後、なにか予定があるんですか？」

女性は、空を見上げたまま言った。

彼女の綺麗な瞳に[写りこむ、七色の虹。

「え？ 僕ですか？」

「はい」

「いえ！ 今日は特に何も予定がないので！」

「そうですか？」

女性はそう言つと一ヶ口に微笑んだ。

そして。

ガラガラガラ。

驚いて後ろ見ると、閉まっていた店のシャッターが開いた。看板を見ると「にじいろ宝飾店」と書かれてあった。

女性は天使のような笑顔を浮かべたまま言った。

「貴方のような若いお客様にはダイヤモンドをお安くしますよ」やつぱり雨は嫌いだ。

＜終＞

(後書き)

読んでくれてありがとうございました。  
思いついたので書いてみました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3752n/>

---

雨宿り。

2010年10月9日13時43分発行